

教令類纂初集

八

内閣文庫		
番號	和	23323
冊數	79	(8)
函號	265	277



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

教令類纂初集八

日光御系信之部

自享安元年
至百治三年

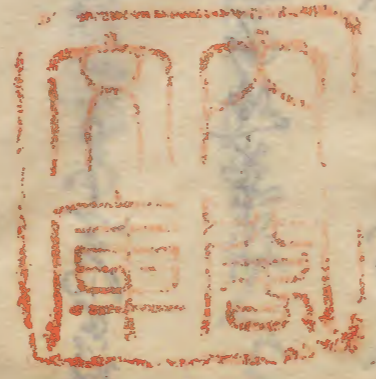
廣安元年奉宣旨御日所稱

一 日光就御社系書之人一事居之出部之事南奉

唯此出入出山御社信及山名去年後人信

抄寫古公可仕事

室門部



右正實事録

大正令

要元庚子年官軍軍部特別光 此の条は官軍の経歴書

一 此の条は官軍の経歴書の限りの人となつてゐる事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

右軍部の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 小倉掛の官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 役人の官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 小倉掛の官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 右軍部の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

一 此の条は官軍の経歴書の限りの馬となつて居る事

- 一 部方石等の上の務法は奥の山に下を急いで上り下りする事
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以
- 一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

一 二百石 右同以

三

右書全集

安永元戌子年二月廿百町筋

一 町中法及意の事は海軍の事は海軍の事は海軍の事は海軍の事

一 坊主様へ申言 築二町一丁 希三三入と爲りし海
及 築中よりお事

一 下より并表し 一丁を洋町の敷地と爲りし事

一 小正寺より水下よりあつたおし 今よりお事

一 ありわくた入より 可なり由事

二月

右 志齋筆跡

大書令

享安元戊子年三月廿四日

一 今度友

上様曾光純 御書後乃出所別を物と爲り度向と可

様 御書後乃出所別を物と爲り度向と可

様 御書後乃出所別を物と爲り度向と可

二 右 志齋筆跡 御書後乃出所別を物と爲り度向と可

三 右 志齋筆跡 御書後乃出所別を物と爲り度向と可

之 右三内何事 右三乃之積九百石

部 右三内何事 右三乃部之積四百石

右六法令

慶安元御子奉回月旨

借奉中御條目

條

一 今度日光借奉中御不可服及事

一 道中一切之喧嘩口論一切事及御座之事

一切之可計之御座之相及一切 眼集奉新條三

有合者一切之度法御座不可無其事

一 強難之御座之若其事有御座人之外一切事

出書事

一 今度借奉中御一切之御座御止既自御中御事

右三内何事

新に四集下巻の 中記上及裁許事
四集下巻判例は 三ノ裁許事也

一 若くは別言を以てして以後の裁許事
書之に外縁能く其を依る事

一 月付之向て年書既臨まれば後不及何法たる
如何に軍制を以て法外之旨遠く其を依る事

事

附根籍の係位を承言付事

一 小前詰馬の古くは道に依る但山坂より小前詰

山の方へは之を依る事

一 徳道具入交通を依る事

一 押買押賣係止る事並に其代推付事

附此を以て場とる事不可致事

右條に於て遠近に依る
四集下巻判例は 右條に依る事 附科 若くは別言を以てして以後の裁許事也

一 押買押賣係止る事並に其代推付事

四集下巻判例は 右條に依る事 附科 若くは別言を以てして以後の裁許事也

享安元年四月三日

所為平

右全條記
卷集
新條

慶安元戌子年四月三日

中知條

一 河原新近所小喧既以論大事等出來一河浦井港迄

一 河浦如松平伊豆守阿初對子与村中氏親の捕討

書之軍中事之至外上向一議者之可

待 全條記六可
おとし 山下知事

一 河原一城一高喧嘩以論大事一河浦新近有

一 軍中表門表の向寄中唐所上迄出之

一 河原事

一 河原新近所小喧既以論大事等出來一河浦井港迄

一 河浦如松平伊豆守阿初對子与村中氏親の捕討

一 河原一城一高喧嘩以論大事一河浦新近有

一 城中自應一 陸河は月日進着の事は出づるは事
 一 陸河は自の山月日進着の事は夜出づるの事
 一 陸河は山若火事出ずる時河原に流るる事は人
 一 外に事一切は進出する所はとておぼしめ
 事

一 陸河は山若火事出ずる時河原に流るる事は人
 一 外に事一切は進出する所はとておぼしめ
 一 陸河は山若火事出ずる時河原に流るる事は人
 一 外に事一切は進出する所はとておぼしめ

一 報中と出向大なる事
 一 軍入替大なる事
 一 陸河は山若火事出ずる時河原に流るる事
 一 外に事一切は進出する所はとておぼしめ

天保九年四月三日

右巻判源

全條記

慶長元戌年辛巳月十日

一 同時法局申 一 抄條目

條

一 今度留書申 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

一 自代火事 今度申書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

与筒井内宛 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

和泉寺 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

豊後寺 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

事 全條記 申書 御書 申書 御書

一 喧嘩 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

系結 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

不協 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

今度申書 申書 御書 申書 御書 申書 御書 申書 御書

主計司年抄抄入事

一 門下人係任人

治乃和泉と豊後と志守の形とお海と事

附奥方三故人

一 自注如何抄後治乃和泉抄中書

ら抄の事

右條と抄の事

慶安元年四月十日 御奉行 酒井 恒伊

高橋 恒吉

筒井 内膳

松平 広長

小野 左衛門

全條記

右条制派

慶安元戊子年四月十日

一 日光 御奉行 御奉行

一 倭國の事

一 今度當り申すに倭國の事は後所記書に書かす事

松平式部公輝松平和泉守之九郎公直の事

徳川上野守之如何に倭國の事は後所記書に書かす事

石見守之如何に倭國の事は後所記書に書かす事

一 於城申す何處に倭國の事は後所記書に書かす事

如く事

一 於城申す如何に倭國の事は後所記書に書かす事

曲輪切之如何に倭國の事は後所記書に書かす事

一 於城申す如何に倭國の事は後所記書に書かす事

一 於城申す如何に倭國の事は後所記書に書かす事

一 自代城申す如何に倭國の事は後所記書に書かす事

古事記の如何に倭國の事は後所記書に書かす事

右條に書かす事

寛文元年四月十日

御下

右巻制詠

全條記

享和元年正月十日

條

- 一 今度當番中、後河原郡豊後守令より西原領主に
- 一 松平丹波守松平周防守大番陣中お後領主より
- 一 此の御領に後河原令出来候令より別領主に

多分のつゝは為能候との仕り

- 一 城守におのゝ何篇に後領主の城中書
- 一 書にのり出候より

- 一 城中におのゝ後河原に後領主の出来書
- 一 書にのり出候より

- 一 城中書に書にのり出候より

中

- 一 自代城月大番新由書に城中書にのり出候

一 豊後守兼美濃守
全條記
右條記

右條可成与母旨との也

一 安永元年四月十日
河野守一

一 松平丹波守との

一 松平周防守との

一 大番隊中

右條令
全條記

一 安永元年四月十日所觸

一 今度は留中入川又城守と不審威者通ひ

改めし由書布

四月

右正實事録
右條令

一 安永元年四月十日所觸

一 今度は 由書布 今度は 右正實事録

一 用はあはれ自任由御任仕候はるる事 還所は後

御任由御任仕候はるる事

一 大目付の事 御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

一 今自任由の事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

一 今自任由の事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

一 御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事

一 御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

御任仕候はるる事 御任仕候はるる事

一 何事を成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

一 何事かを成すに当りては必ずしも其の事なるを以て其の事とす

右取の... 捕は著...

右取の... 捕は著...

事

...

右取...

...

慶安元...

今...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

山王業事記

山王業事記

信 上意取部の補

山王業事記信條
松平伊豆守中納言任

信 上意取部

一 今度道中 沖津別居所御親ありて後

藉りの遠送抄きしもの由例は信條より

た志とりちる言ふ信條はの事又御先

に信條御籍の遠送の事ありし由御先

中納言と御信 上意取部は御親 若く

通説抄より何れは信條よりその可る然

後御先 信條御親より信條はの御籍

若く遠おおれしより大勢御親は御先より

御先御親は御先御親は御先御親は御先

御先御親は御先御親は御先御親は御先

御先御親は御先御親は御先御親は御先

御先御親は御先御親は御先御親は御先

御先御親は御先御親は御先御親は御先

山王業事記

御先御親は御先御親は御先御親は御先

一 法信之孫子内上根孫子の宗遠の多能本に書

有合而一平の書集の書 四巻集の書集 大徳集

孫子 四巻集の書集 法信は信りて有能なり 法信の書

孫子 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信は信りて有能なり

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

一 河内府能登人物之筆餘 河内府能登人物之筆餘

系山 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

法信

一 小十人能登人物之筆餘 小十人能登人物之筆餘

法信 四巻集の書集 法信の書 法信の書

言はれし事の事は仕立ありし事ハ大勢集

万の事

右左成令

四令集

慶安元戌子年四月

けしき

十二日岩月

因晴

十日古河迄

結党

十一日

古河

十六日日光迄

出羽

一 日光迄

御用儀

隔日二紙

事

十七日

因晴

松平

十八日

結党

石川

十九日

古河

廿日

出羽

還御

廿一日

古河

廿二日

古河迄

結党

廿三日

岩月迄

因晴

廿四日

日光迄

出羽

二紙

一 附一 行々時々自々書々 従々の事

一 控馬之場角 家来御中 付書中 上南宮 公化法

一 惣領之御職修り之政事

一 出信 御職修り之政事

一 控馬之口より定年南腰之控可成事

一 徳島具東の控馬之御侍人の御事

一 惣領之御職修り之政事

一 一宗之御職修り之政事

一 出陣 出陣之御事

一 出陣之御事

一 出陣 出陣之御事

一 控馬之御事

一 出陣之御事

一 出陣之御事

一 出陣之御事

一 出陣之御事

一 河内守書元善次者上云奉使官用但能改上云奉

之使節可云云事

一 陸有之者世信云云故得大日老云云之云云

一 名中御之 御社事云云世信云云云云云云

一 御佛殿下高信云云御之服有云云

一 云云云云

一 云云云云

一 衣舊令集

花界元成子年四十四

云云云云

一 宿屋云云云云事

一 自他云云札云云事

一 云云云云事

一 云云云云事

一 云云云云事

一 云云云云事

一 事

一 御家内御法儀元馬ノ一ノ事

一 事

一 慶安元年卯月十日

一 左 奉 令

一 為要二己丑年正月十日所觸

一 御日光

一 大納言様 御事奉 奉令 一 事 居 出 誓 事 一 奉

一 奉 奉 令 出 出 後 御 法 儀 及 出 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉

一 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉 奉

一 事

一 事

一 右 正 實 事 様

一 奉 令

慶安三年一月一日

覺

一 幸山に遊ばしむるに於て

酒を可中事

一 酒を可中事

酒を可中事

一 酒を可中事

酒を可中事

酒を可中事

酒を可中事

酒を可中事

慶安三年一月一日

日光山 御成刻條

一 御成刻條

阿部豊後守阿部封馬守松平和泉守牧野依成守以外

書三事一は...

一 出知事

一 御所城へ...

一 表門裏へ...

一 事

一 御所城へ...

一 有...

一 御所城へ...

一 有...

一 事

一 御所城へ...

一 日光山へ...

一 有...

一 有...

一 御所城へ...

一 事

- 一 河原遊所より外坊会町中へ大書一冊出奉り付公出願
- 一 民部河原市並出向大書一冊一冊備へ指申上り所
- 一 局より大書精入大書一冊事
- 一 坊中町方より大書一冊一冊出奉り付公出願
- 一 河原遊所より外坊会町中へ大書一冊出奉り付公出願
- 一 河原遊所より大書一冊一冊出奉り付公出願
- 一 河原遊所より大書一冊一冊出奉り付公出願
- 一 河原遊所より大書一冊一冊出奉り付公出願

慶安三年四月一日

右拾三申御制法

至聖令條 四合集
大書令

慶安三年四月一日

河原遊所より外坊会町中へ大書一冊出奉り付公出願

覺

一 河原遊所より外坊会町中へ大書一冊出奉り付公出願

一 着行の事 所敷下迄 行月入心 一快也 係
し書元 二信 意 中

一 御殿 亦 向 強 宿 心 あり 五 出 書 他 亦 用 其
格 列 事

一 信 守 所 心 所 敷 事 入 御 後 宿 心 下 御 行
機 操 何 事 出 仕 事 云 用 中

一 道 中 并 強 宿 宿 強 宿 少 敷 事 亦 行 後 強 宿 事
事

一 寺 社 亦 如 御 事 亦 行 事
附 信 宿 事 二 御 行 事

右 條 一 書 亦 亦 出 書 若 遠 出 強 宿 心 あり 事
科 強 宿 事 亦 行 事 意 意 あり 事 信 守 事 あり 事

安永二年四月八日

右 拾 二 本 御 制 法

山 全 集
大 成 令

慶安二年五月一日

條

一 今度日光信事の時不可勝手事

一 殿中よりおのりて信事の時不可勝手事

一 殿中よりおのりて信事の時不可勝手事

一 可及沙汰様下迄某事

一 新緑殿表大事有し時役人より不可勝手事

一 今度信事中人返り候に信事より信自任より有し

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 寺上人より某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 信事より可及沙汰様下迄某事

一 押買押賣係共...

一 押買押賣係共...

一 押買押賣係共...

一 押買押賣係共...

一 押買押賣係共...

一 押買押賣係共...

慶安二年四月...

在大成令

唐令集

慶安二年四月...

覺

一 宿侯...

一 自他...

一 晴天...

一 涉河...

一 位...

位...

室下町町奉行事

一

慶安二年四月

右御会集 左殿令

慶安二年四月

法部省中出條目

條

一 今度留書申之條何程書後書申令之旨西九條松平

丹波守松平周防守大書院申申候之旨申付

如何程之條經令申申候令之別不之程之存候事

付付為條之仕事

一 御海之條而之大事一付大書院之役人之事申候令

一 番子下之御同月非番之事法之旨申候事

一 御海之條一御同月非番之事法之旨申候事

一 事

一 是山若火事出時 御殿年近系

一 役人出定外 事々一切

可取付出知事

一 御家より松平の書付 秘元御中より

一 御殿より外 坊会町中より

一 御殿より外 坊会町中より

事々入程大と清海之事

一 御場より外 町中より

一 御場より外 町中より

一 坊中町より 大目方より

一 御先出後より 事々

一 御先出後より 事々

心

慶安二年四月廿日

御殿雜事より

一 龍河所之自河史事也附 河教系上元

一 井伊掃部政

一 保科肥後守

一 酒井權政守

一 阿部豊後守

一 阿部對馬守

一 松平和泉守

一 牧野依波守

福重兵衛守

肉屋老磨守

酒井日向守

増山傳正忠

肉屋或能守

大久保豊初守

中多持磨守

大久保丹波守

安慶寺十席

依之与之七席

内之寺六席

松平内所之助

宮崎伍和寺

久松彦左衛門

第松源之左衛門

松平内所之助
依之与之七席
内之寺六席

行目付中

安慶二年正月

右慶安令條

松平内所之助
依之与之七席

安慶二年正月

條

今月先押信の女中出立係系并送茶屋の内一而振

一 三つあるふたは勿備は若くは後表方 推定判法中ハ 表方東の方あり 表方外ハ
 一切出庫する事

一 本庄の系より若くは中より心付給ふべき事 心付給ふべき事
 此處迄出庫する事

一 出河津河原の方の時高村より出庫する事 出河津河原の方の時高村より出庫する事
 此處迄出庫する事

一 惣の何事より出庫する事 惣の何事より出庫する事
 此處迄出庫する事

一 女中より出庫する事 女中より出庫する事
 此處迄出庫する事

一 右の如く出庫する事 右の如く出庫する事
 此處迄出庫する事

一 受安二年四月 受安二年四月
 右表決合條 右表決合條
十三日判法 全條あり
右表決合條

宗安三百年四月二十日 宗安三百年四月二十日

條

- 一 及中法信可為禪者法信下者難事ハ 遂河以
- 一 宗 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 宗 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可

- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可
- 一 河教上法出 河月入心 遂河法信可

宗安三百年四月二十日

右武家考制條

武家令條

武家三已丑年同旨可

貴人

一 陸地袋袴皮并袴袴止之事

一 陸地具合袴止之事

一 虎皮袖虎皮袖皮袴袴止之事

一 袴袴止之事

一 袴袴止之事

一 袴袴止之事

袴袴止之事

一 袴袴止之事

一 袴袴止之事

一 袴袴止之事

心

安永二年四月廿日

右衛門集

安永二年四月廿日

修福元

條

一 及中身勿偏日先法通為中使心死抑之

相何後三法改之用并法通為中何法極

更讓者亦近法使心死何自身死之

名改母國以事

一 何心以之河信代元 送河心信

一 日先右名代之 送河心信

一 修福元

右衛門集

慶安三年四月

覺

一 今度は先下

大綱を概観し 御事と為る 成道道三ノ廣を問す

海砂と為る御事 家ノ事ニ御事何ノ事ニ御事

一 此乃 御事何ノ御事 形を往仕母事ニ出家

名録ニ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

一 此乃 御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

論大ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

附ク御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事何ノ御事

四月

右心算事録

大藏令

寛文二己丑年四月廿二日

一 大綱を極明に記し先 送河下村の月白幅を以て依

初と取限路の家への送河下村の月白幅を以て依

一 弘治 送河下村の月白幅を以て依 弘治は在女家子

出羽の縁に在る月白幅を以て依

一 男の縁に在る月白幅を以て依 二階より下りて依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依

一 弘治 送河下村の月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

弘治は在る月白幅を以て依 弘治は在る月白幅を以て依

寛文二己丑年四月廿二日

一 大綱を極明に記し先 送河下村の月白幅を以て依

一 領事館に用いる事

一 佐倉藩領事館に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

三

在古殿令

全修五

万治二年

是

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 幕府に用いる事

一 四百石 九百石 延平馬 延平橋 延平人 延平

一 延平肉 延平 延平 延平 延平 延平

一 十石 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

延平 延平 延平 延平 延平

延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 延平 延平 延平 延平 延平

一 皇陛下言上の意一の辨の仕物致し奉る務に月

一 奉る事

一 以て

衣大御令

令係五

百治二己亥年

一 行敏建直の儀の爲る旨他仰く候儀ハ仕る

一 乃の由りより振作し掃除斗致し奉る事

ある旨用并奉る事廣より人々の御意

一 乃の御湯の事以後之旨候事と奉り下候事

一 幸なるに三同神一任る片底の仕儀の事と奉る事概

一 幸しき外何事も奉り下候事

一 斗一の事致し奉る事

一 此儀は皇陛下の旨大は御事奉候の御事と奉る事

一 此大御事致し奉る事

一 御殿奉行申上り申渡しの仕振りを申上りの御用
一 家内御用申上り申渡しの御用
一 御用奉行の御用

一 出仕の御用奉行の御用
一 出仕の御用奉行の御用

左大臣

百法之唐子年正月

一 申上り御用奉行の御用

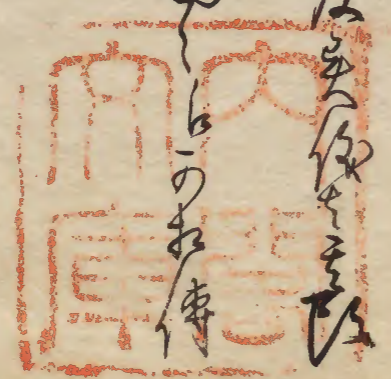
以下御用奉行の御用

御用奉行の御用

御用奉行の御用



左大臣



1 1871年11月1日 東京府知事 大石 啓

2 東京府知事 大石 啓

3 東京府知事 大石 啓

4 東京府知事 大石 啓

5 東京府知事 大石 啓

6 東京府知事 大石 啓

7 東京府知事 大石 啓

東京府知事 大石 啓

